平成6年6月1日発行　明治31年4月20日　第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）　第140巻 第3号　ISSN 0287-2706

英語青年

THE RISING GENERATION

特集：酒の中の真実

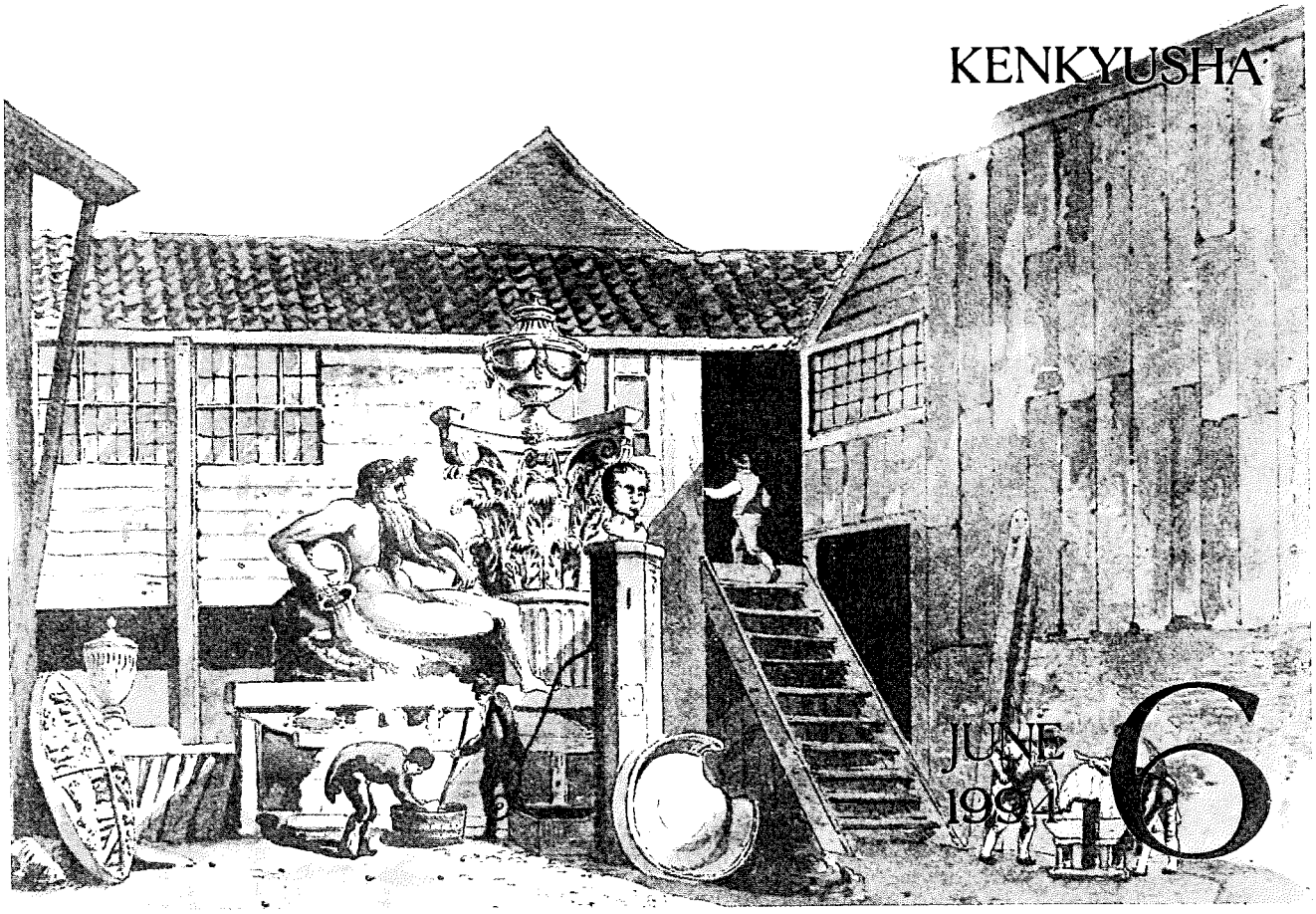
池上忠弘・松村昌家・松村賢一
岡照雄・酒本雅之・井上謙治・南條竹則

クリスティーナ・ロセッティ没後百年／上杉文世

Hamlet 登場（上）／玉泉八州男

邂逅録(1)——学校／近藤いね子

日英語関係節のテンスと話し手の視点／澤田治美



平成6年6月1日発行 / 明治31年4月創刊 総号1744号

第140巻 / 第3号

英語青年

Vol. CXL No. 3

THE RISING GENERATION

June 1, 1994

目　次

クリスティーナ・ロセッティ没後百年 . 上杉　文世 106
邂逅録——学校 . . . . . 近藤いね子 109

特集：酒の中の真実
中世の酒盛と饗宴 . . . . . 池上　忠弘 110
Samuel Pepys の酒 . . . . . 岡　照雄 111
酒に酔い言葉に酔い——Dick Swiveller の人生 . . . . . 松村　昌家 112
生命の水——イェイツとジョイスの場合 . . . . . 松村　賢一 113
「超越」と酩酊——「アメリカ・ルネッサンス」における . . . . . 酒本　雅之 114
酒と John Cheever . . . . . 井上　謙治 115
世紀末三酔人——ダウスン、マッケン、ハウスマンのこと . . . . . 南條　竹則 116

Hamlet 登場(上) . . . . . 玉泉八州男 121
"Called Back"——管見・晩年のディキンスン . . . . . 野田　壽 124
太平洋のこちら側から——月刊『アメリカ文学』のこと(下) . . . . . 金関　寿夫 127
ヘンリー・ジェイムズ点描(3) . . . . 大津栄一郎 128
日英語対照研究(3)——日英語関係節のテンスと話し手の視点 . . . . . 澤田　治美 132
さまよえる旅人たち(15)——都会の放浪者たち：ヴィクトリア朝における . . . . . 荻野　昌利 136

海外新潮
ロマン派研究の昨今 . . . . . 笠原　順路 131
コンピュータで読む小説 . . . . . 上岡　伸雄 135
文法化 (grammaticalization) . . . . 寺澤　盾 139
The Coade Artificial Stone Manufactory (表紙について) . . . . . 鈴木　博之 140

『主のはしためを見よ！』(受胎告知)
(モデルは C.G. ロセッティ、D.G. ロセッティによる油彩画、1849-50年、The Tate Gallery, London 蔵。2～4ページ参照)

Books from Abroad 140
Gary Taylor and John Jowett: *Shakespeare Reshaped 1606-1623* (Oxford Shakespeare Studies) (金子雄司)——Anne Fernihough: *D.H. Lawrence: Aesthetics and Ideology* (内田憲男)——Barbara Frey Waxman (ed.): *Multicultural Literatures through Feminist/Poststructuralist Lenses* (林文代)——「ケンブリッジ版アメリカ文学史」刊行開始

新刊書架 143
Yasunari Takada 編: *Surprised by Scenes: Essays in honour of Professor Yasunari Takahashi* (シェイクスピアからベケットへ——高橋康也教授還暦記念論文集) (蒲池美鶴)——山形和美著『グレアム・グリーンの文学世界——異国からの旅人』(岩崎正也)——渡辺信二著『荒野からうた声が聞こえる——アメリカ詩学の本質と変貌』(富山英俊)——中野弘三著『英語法助動詞の意味論』(浅川照夫)——東信行・諏訪部仁訳編『研究社-ロングマン 句動詞英和辞典』(荒木一雄)

イギリス文壇ニュース . . . . . M. H. 144
英文解釈練習 . . . . . 飛田　茂雄 148
和文英訳練習 . . . . . 小田　卓爾 150

片々録 152

表紙：The Coade Artificial Stone Manufactory

ロマン派研究の昨今

このところ、ロマン派研究に関する入門書または総説書が目につく。例えば、英仏の学者の執筆による Jean Raimond and J. R. Watson, eds., *A Handbook to English Romanticism* (1992), ロマン派文学に関する11編の論文を収めた Stuart Curran, ed., *The Cambridge Companion to British Romanticism* (1993) がある。これらはいずれもこの四半世紀の間に北米大陸を中心に興った新しい批評の刻印を明瞭に受けている。例えば、前者に収められた全86項目のうち "A" の項だけを拾えば、The Abolition of the Slave Trade, Mark Akenside, The American Revolution, The Anti-Jacobin, Architecture, Association, Jane Austen となる。また、後者 Curran, *Companion* に編者自身の寄せた論文の題は 'Women readers, women writers' となっている。これらは、単なる入門書というよりは、これまでのロマン派研究をふまえ、新たなロマン派研究の方向性を示唆するものと言えよう。

入門書というよりロマン派の全体像を模索した総説書ともいうべきものとして、Marilyn Gaull, *English Romanticism: The Human Context* (1988) がある。本書は、ロマン派研究における社会文化的な視野の広がりを反映したもので、特に経済・自然科学・大衆文化などの観点からの切り込みに鋭く、副題どおり、ロマン主義の時代の人間の姿がより鮮明に見えてくる一冊である。

もう一つ、1992年に Laura Dabundo の編集により出版された *Encyclopedia of Romanticism* なる本がある。Garland社 の一連の Encyclopedia シリーズの一つである。Marilyn Gaull が寄せた序文の冒頭の一文がおもしろい。"Because the Romantic period was so learned, diverse, and intellectually aware, an encyclopedia is an especially appropriate form for representing Romanticism in England." つまり統一した知の枠組みのなかでロマン主義を論ずることは不可能だというのだ。ロマン主義というのは、contradictions, diversity, fragmentation を内包したものだという認識から出た発言である。

事典の編纂にあたっては、項目の取捨選択そのものが編者の態度に直結するのだが、おもしろいのは、20世紀の学者・批評家によるロマン主義文学研究の成果も項目に取り入れられている点である。Anxiety of Influence (項目名は 'Influence, Anxiety of'), The Greater Romantic Lyric (同 'Lyric'), Natural Supernaturalism (同 '— and 20c Critics'), Negative Romanticism, Ventriloquism の5項目である。つまり、Bloom から一つ、Abrams から二つ、Peckham から一つ、Bostetter から一つということになる。この選択は色々な意味で、現在のロマン派批評の姿、または現在のロマン派批評のあるべき姿を象徴的に表していると言える。

Abrams から2項目はいいとしても、そのなかに *The Mirror and the Lamp* がないのが不思議だ。*The Mirror and the Lamp* より *Natural Supernaturalism* を高く評価するのは当然としても、*The Mirror and the Lamp* の項目自体を設けないのには驚いた。どうやら、そのわけは、ventriloquism という項目が存在していることと無関係ではなさそうだ。本書では、もっぱら Edward E. Bostetter, *The Romantic Ventriloquists* (1963) との関連で ventriloquism が論じられている。編者の狙いは、Abrams の expressionist theory に代表されるような、いわば optimistic で affirmative な面を前面に押し出したロマン派観と、Bostetter に始まって Tillotama Rajan (1980) や McGann (1983) へと続く必ずしも optimistic とは言えない、というより skeptical なロマン派観との間に均衡を持たせようということらしい。均衡と言えば聞こえはいいのだが、ここにはかなり生々しい政治的意図が感じられる。その項の執筆者は、Coleridge の批評用語としての ventriloquism を説明するのではなしに、Bostetter の "proto-deconstructionist" としての面を強調する。つまりこの事典においては、deconstructionist 関連の項目を特に設けずに、Bostetter 一人に全ての deconstruction を代表させておいて (このこと自体は一応の見識か?)、Bostetter と *The Mirror and the Lamp* とを相殺させたことになる。これは Abrams という存在の影響に恐れをなした、父親殺し的行為と言えなくもない。

5項目の象徴するところをもう一つ。Negative Romanticism, Ventriloquism は必然的に Byron に対して新たな意味を付与することになる。先に述べた Curran, *Companion* の巻頭論文 'Romanticism, criticism and theory' で David Simpson が示した現代のロマン派研究の見取り図において、著者 Simpson は現代の deconstruction や new historicism 的ロマン派観の源を100年前の Matthew Arnold の Byron 評価にまで遡って求めている。そういえば、*The Romantic Ideology* (1983) の著者 Jerome J. McGann はそもそも Byron 研究者としてスタートしたのだった。奇しくも *Don Juan* の邦訳が話題を呼んでいるこの頃である。

(笠原　順路)

新刊書一覧

(出版社の五十音順、税込価格)

『〈個〉を超えて——現代アメリカ文学を読む』(「和泉選書」86) 安井信子著、1994年2月、四六判 iv+220頁、2,575円、和泉書院。

『英文快読術』(「同時代ライブラリー」176) 行方昭夫著、1994年3月、新書判変型 x+248頁、950円、岩波書店。

『ことばの樹海——石黒昭博先生還暦記念論文集』 中井悟・龍城正明・山内信幸編、1994年3月、A5判562頁、12,000円、英宝社。

『モダニスト詩以後——英米詩人論』 後藤明生著、1994年3月、A5判268頁、3,605円、開文社出版。

『ヘミングウェイと原始主義』 三木信雄著、1994年3月、四六判 viii+144頁、1,854円、開文社出版。

『形而上詩人ジョン・ダン——ルネッサンスに生きた現代人』 山脇百合子著、1994年2月、四六判198頁、2,500円、近代文藝社。

『シェイクスピアの歴史劇』 日本シェイクスピア協会編、1994年3月、四六判284頁、3,200円、研究社出版。

『12か月の英会話』 下村秀則・戸津井ペニー著、1994年3月、新書判170頁、1,400円、研究社出版。

『丁寧な英語・失礼な英語——英語のポライトネス・ストラテジー』 東照二著、1994年3月、B6判160頁、1,400円、研究社出版。

『読みのパノラマ——英米文学論集』(「荻野昌利教授還暦記念論集」)荻野昌利編、1994年3月、A5判290頁、3,200円、こびあん書房。

『聖なるものと想像力』(上・下) 山形和美編、1994年3月、A5判、各4,500円、(上)396頁、(下)398頁、彩流社。

『ブライアン・フリール』(「現代アイルランド演劇」2) ブライアン・フリール作、清水重夫・的場淳子・三神弘子訳、1994年3月、A5判302頁、2,884円、新水社。

『劇場人シェイクスピア——ドキュメンタリー・ライフの試み』(「新潮選書」) 安西徹雄著、1994年3月、四六判226頁、980円、新潮社。

『言語学への招待』 中島平三・外池滋生編著、1994年3月、A5判294頁、2,060円、大修館書店。

『エマソンとその時代』 市村尚久著、1994年3月、B6判384頁、3,296円、玉川大学出版部。

『とびきり哀しいスコットランド史』 フランク・レンウィック・オブ・レンヴンストーン著、小林章夫訳、1994年3月、四六判238頁、1,980円、筑摩書房。

『アメリカ式論文の書き方』 ロン・フライ著、酒井一夫訳、1994年2月、B6判変型 vi+158頁、1,500円、東京図書。

『イギリス英語のイントネーション』 J. D. オコナー・G. F. アーノルド著、片山嘉雄・長瀬慶来・長瀬恵美編訳、1994年2月、四六判変型 x+336頁、3,300円、南雲堂。

『ファミリー・ポートレイト——記憶の扉をひらく一枚の写真』 キャロリン・アンソニー編、松岡和子・前沢浩子訳、1994年3月、A5判330頁、3,400円、早川書房。

『ひとは発話をどう理解するか——関連性理論入門』 ダイアン・ブレイクモア著、武内道子・山崎英一訳、1994年2月、A5判310頁、3,100円、ひつじ書房。

『エデン郡物語——ジョイス・キャロル・オーツ初期短編選集』 中村一夫訳、1994年2月、四六判224頁、1,900円、文化書房博文社。

『アメリカ その文学と歴史』 仁木勝治著、1994年3月、B6判138頁、2,060円、文化書房博文社。

『寓意と表象・再現』 スティーヴン・J・グリーン編、船倉正憲訳、1994年3月、四六判 vi+378頁、3,914円、法政大学出版局。

『古典的シェイクスピア論叢——ベン・ジョンソンからカーライルまで』 川地美子編訳、1994年3月、四六判220頁、3,090円、みすず書房。

『たのしく読めるイギリス文学』(「シリーズ・文学ガイド」1) 中村邦生・木下卓・大神田丈二編著、1994年2月、A5判 viii+314頁、2,800円、ミネルヴァ書房。

『たのしく読めるアメリカ文学』(「シリーズ・文学ガイド」2) 高田賢一・野田研一・笹田直人編著、1994年2月、A5判 viii+314頁、2,800円、ミネルヴァ書房。

A Cross-Cultural Approach to the Analysis of Conversation and Its Implication for Language Pedagogy, 村田久美子著、1994年2月、A5判 xiv+328頁、9,476円、リーベル出版。

Synchronic and Diachronic Approaches to Language, 千葉修司編(代表)、1994年2月、A5判 xx+628頁、17,510円、リーベル出版。

『ポンダー家殺人事件』 ユードラ・ウェルティ著、ソーントン不破直子訳、1994年3月、四六判170頁、1,957円、リーベル出版。

● 編集後記 in vino veritas (酒中にまことあり) という言葉は、一本によればエラスムスの『格言集』に出るとあり、研究社の『新英和大辞典』では(大)プリニウスの言葉となっています。たぶん同じことを言っているのでしょう。どなたかその辺のところ Eigo Club 欄ででも、お教えください。▲ せっかくの「酒」の特集にシェイクスピアが抜けてしまいました。ある方にお願いし、ご快諾いただいたのですが、止むを得ぬ事情で、あきらめざるを得ませんでした。タイトルは "Toby, or not Toby" に決まっていて、Sir Toby Belch と Sir John Falstaff の比較をやる、ということだったのですが。▲ 次号は「英語帝国主義」を特集する予定です。

英語青年
6月号
第140巻 第3号
平成6年6月1日発行
定価820円(本体796円)
(送料76円)

© 研究社出版株式会社 1994

編集人 山田浩平
発行人 荒木邦起
印刷所 研究社印刷株式会社
発行所 研究社出版株式会社
〒102 東京都千代田区富士見 2-11-3
電話 東京 (03)3288-7740 (編集)
東京 (03)3269-4333 (販売)
振替口座 東京 7-83761

通常払込料金 加入者負担 通常払込料金